



**ユーザー調査からわかった、  
企業のクラウド利用状況、及び  
基幹システムのクラウド利用状況と今後の展望**

『2013パブリッククラウド利用動向調査』より

株式会社テラスカイ

2014年2月

## 目次

1. 調査概要とエグゼクティブサマリー
2. 回答者属性
3. クラウドの利用の現状
4. 基幹システムの現状とクラウド化の展望
5. 基幹システムの保守・運用
6. クラウドERPの展望

# 1. 調査概要とエグゼクティブサマリー

## 調査概要

テラスカイでは、これまで650社以上の企業に対し、クラウドを利用したシステム導入、コンサルティングサービスを行ってまいりました。その中で、クラウドを導入する以前より、導入後の企業はクラウドに対する考え方が前向きになり、導入が加速するのではという仮説を持つに至りました。本調査では、クラウドサービスの導入やクラウド上で開発したアプリケーションの提供を受けた企業、またクラウド導入の検討を行った企業を対象とし、クラウド利用に関するアンケート調査を実施して、クラウド、及びクラウドERPの導入状況と展望についてまとめました。

方 法： Webによるアンケート

調査対象： 企業のIT部門、及びITシステムの選定に関わる方

調査期間： 2013年12月5日～12月28日

回答者数： 109名（企業の重複を含まず）

調査地域： 首都圏を中心に日本国内全国

## エグゼクティブサマリー

### 1. クラウド利用企業のうち半数以上は、複数クラウドを併用

クラウド利用企業のうち、複数のクラウドサービスを併用している割合は50%以上であるという結果がでました。一旦クラウドを利用するとクラウド導入に対するハードルが下がるのではと考えられます。このように、複数クラウドサービスの併用によるハイブリッドクラウド化は進んでいくことが予測されます。

### 2. クラウドを導入したシステムのうち、既存システムのクラウド移行の割合が昨年より16%UP

昨年の調査では「今までシステム化されていない」システムをクラウドで実装した割合が42%あったのに対し、今回の調査では26%でした。「ホストコンピュータ上のシステム」のクラウド移行は、昨年5%に対し、今回13%と2.6倍に増えています。

### 3. クラウドERPの導入を検討中、または検討の可能性があると答えた企業は、昨年より13%増

クラウドERPの導入を「現在検討している」か「検討する可能性がある」と答えた企業は、昨年と比較して13%増加し、全体の84%を占めています。

## 2. 回答者属性

日本国内に本社、または拠点を置く企業に対しアンケート調査を実施し、109社から回答を得ました。

### 2.1 回答者の企業情報

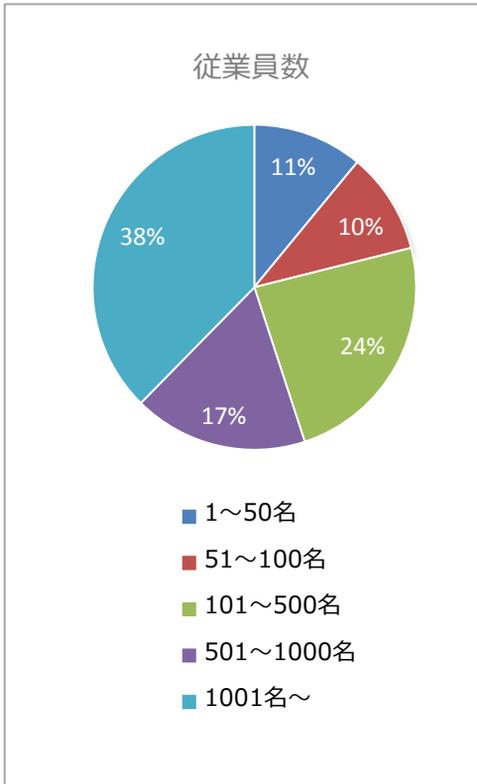


図2-1-1.従業員数

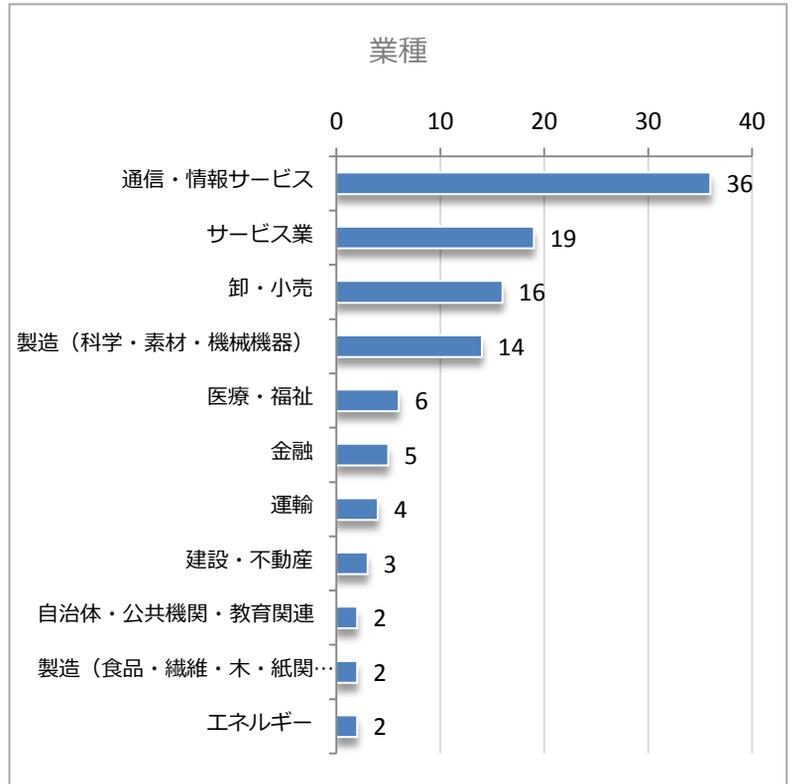


図2-1-2.業種

### 2.2 回答者の個人属性

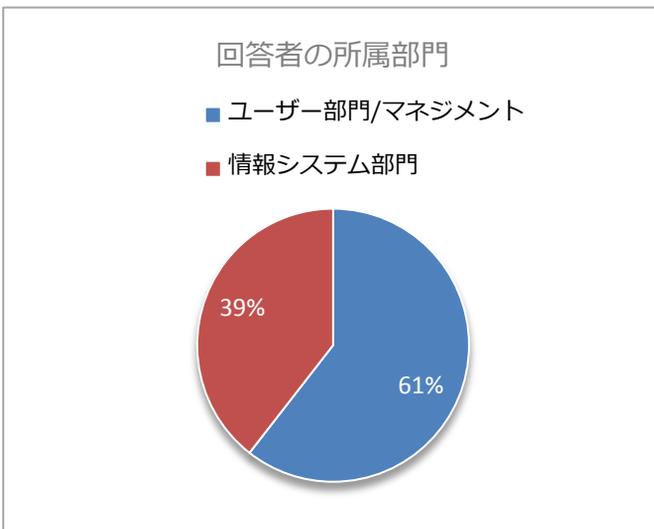


図2-2-1.所属部門

回答者のうち61%は、情報システム部門以外の、エンドユーザー部門、マネージメント、あるいは企画部門など、クラウド上のシステムで遂行される業務に関わる部門に所属する方です。

### 3. クラウド利用の現状

この調査の回答企業が利用しているパブリッククラウドは、下記のように80%以上がSalesforceです。Salesforceのアプリケーション機能まで含めた利用としての回答が多く含まれていることを、考慮する必要があります。

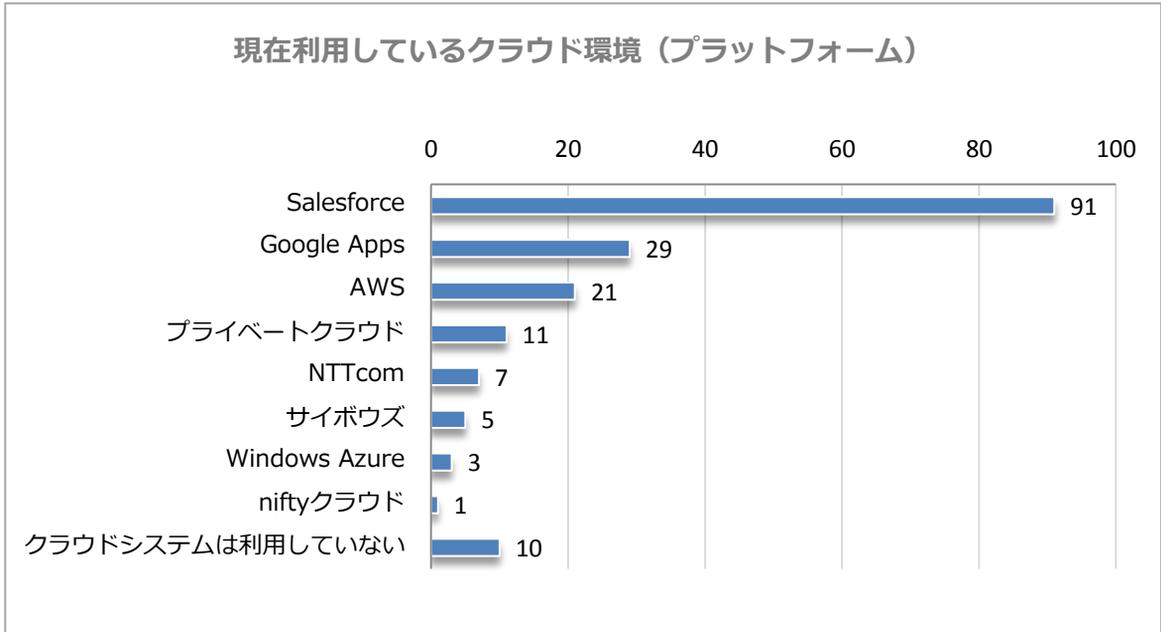


図3.利用中のクラウド環境

### 3.1 クラウドの利用状況

今回のアンケート調査を行った109社のうち、約9割が既になんらかのクラウドサービスを利用していることが分かりました。

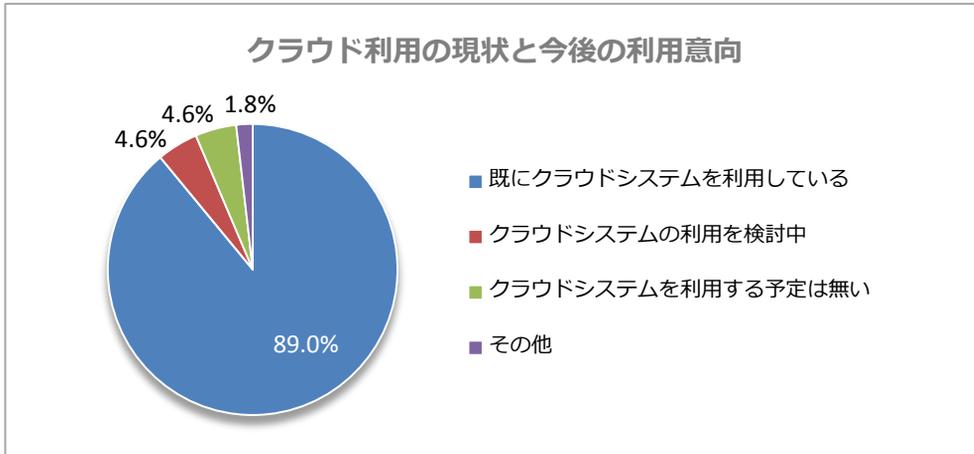


図3-1-1.クラウド利用の現状と今後の利用意向

既にクラウドを利用している企業に対して、どのクラウドサービスを利用しているか質問したところ、クラウドを利用している企業のうち、約半数が2つ以上のクラウドサービスを併用していることが分かりました。

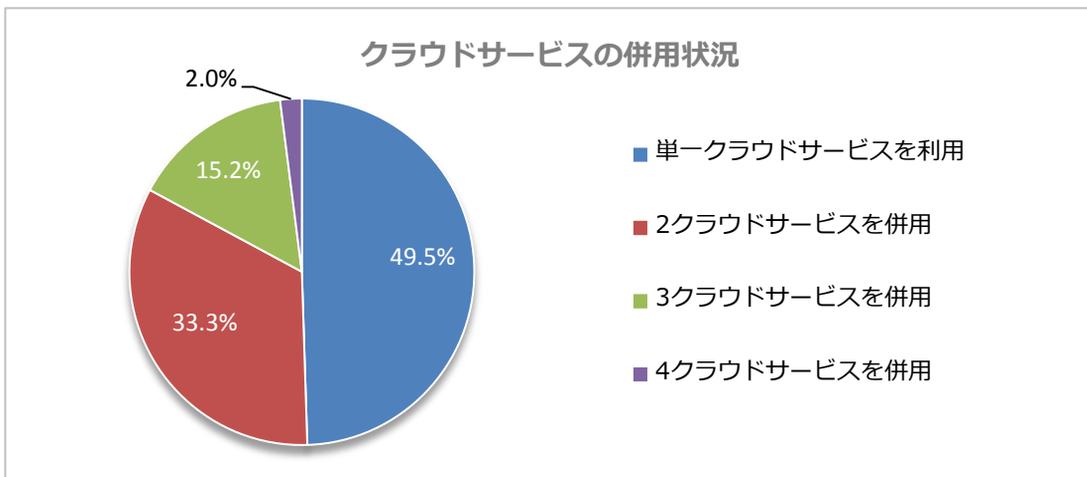


図3-1-2.クラウドサービスの併用状況

クラウド利用のメリットでは、「サーバなどの管理からの解放」が昨年から大きく数を伸ばしています。今回の回答者の属性が、情報システム部門に所属する人が昨年より10%多いことを考慮しても、それ以上の数字の伸びを示しています。次いで「導入スピード」が昨年より多くの企業がメリットと答えています。

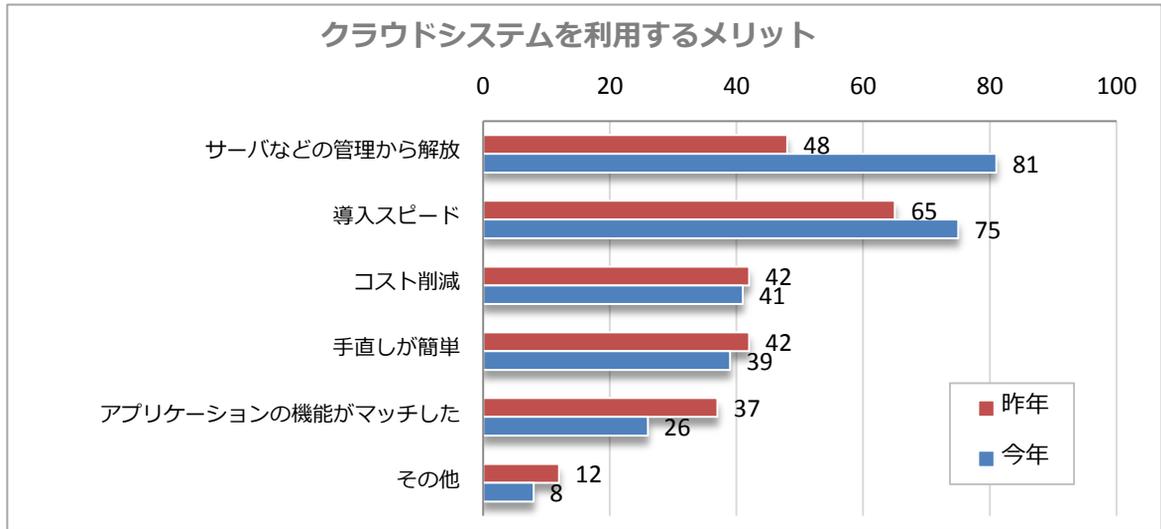


図3-1-3.クラウドシステムを利用するメリット

### 3.2 クラウドへの移行

クラウドに移行したシステムの所在について、昨年は40%以上が「今までシステム化されていない」新規のアプリケーション導入にクラウドを採用したと回答していましたが、今回はその割合が26%まで減り、既存社内システムのクラウド移行が進んできていることがわかります。

中でも、ホストコンピュータ上のシステムをクラウドに移行した割合が、昨年の倍以上になっているのは特筆に値します。

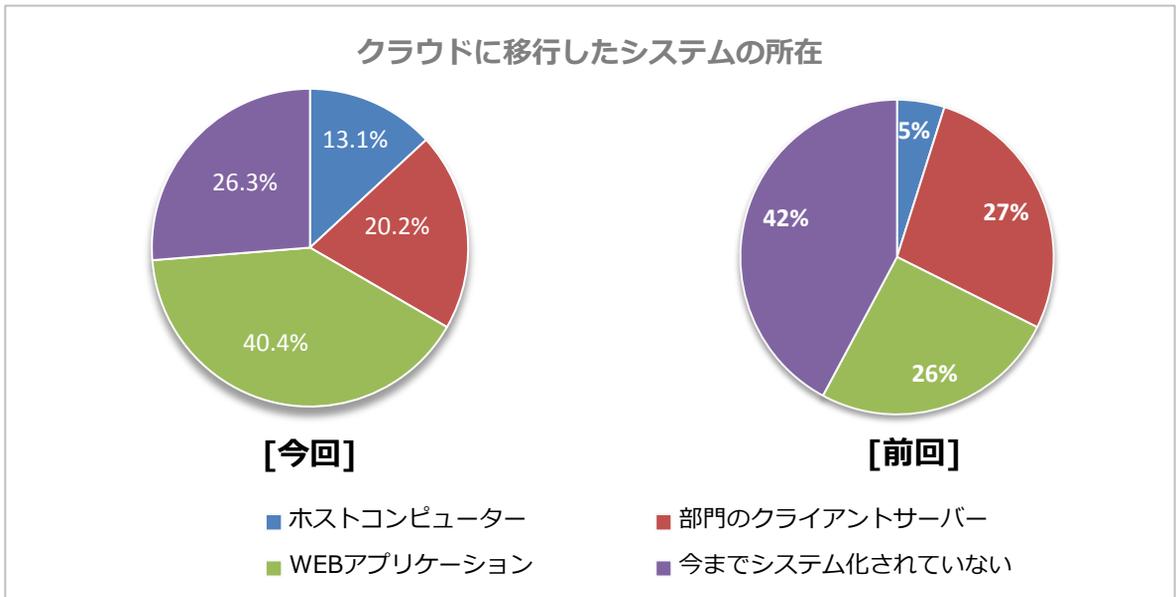


図3-2-1.クラウドに移行したシステムの所在

クラウドの導入に要した期間は、昨年とほとんど変動なく46%の企業が3ヶ月未満、71%の企業が6ヶ月未満と回答しており、クラウドのメリットとして期待された「導入スピード」を概ね実現できている結果となりました。

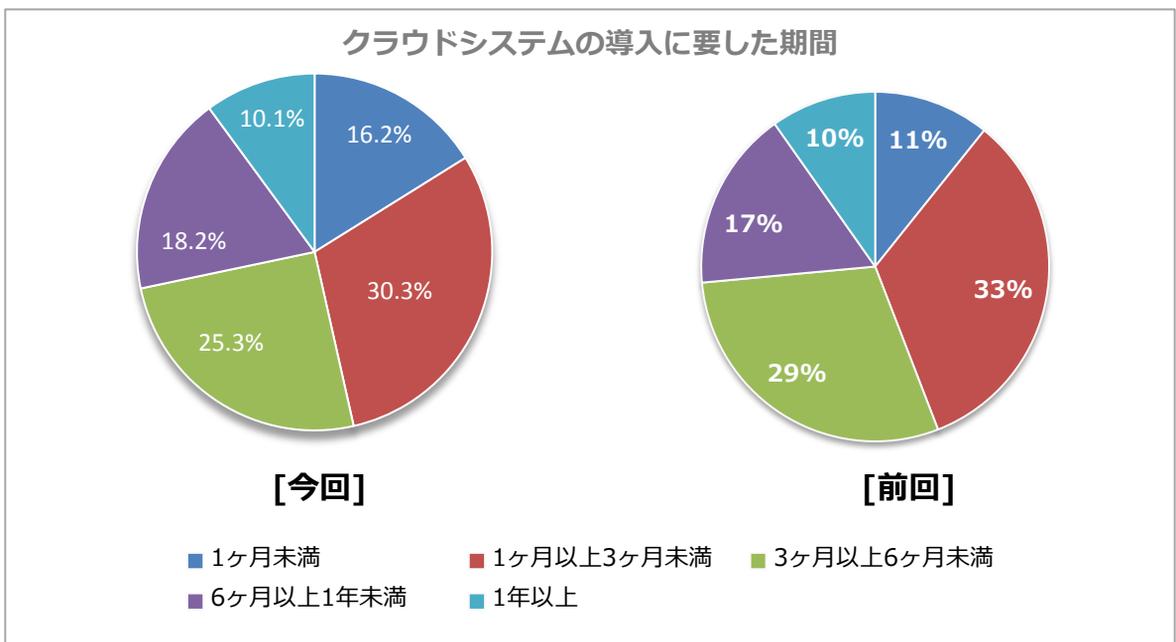


図3-2-2.クラウドシステムの導入に要した期間

## 4.基幹システムの現状とクラウド化の展望

### 4.1 基幹システムの現状

今回のアンケート対象企業のうち約9割がクラウドを既に導入していると回答しましたが、基幹システムについては、74%は「オンプレミスのみ利用」と回答しています。

従業員数が50名未満の企業に絞って基幹システムの所在を見ると、11社中6社が「クラウドのみを利用している」と回答、「オンプレミスの自社開発システム」と回答したのは1社だけでした。

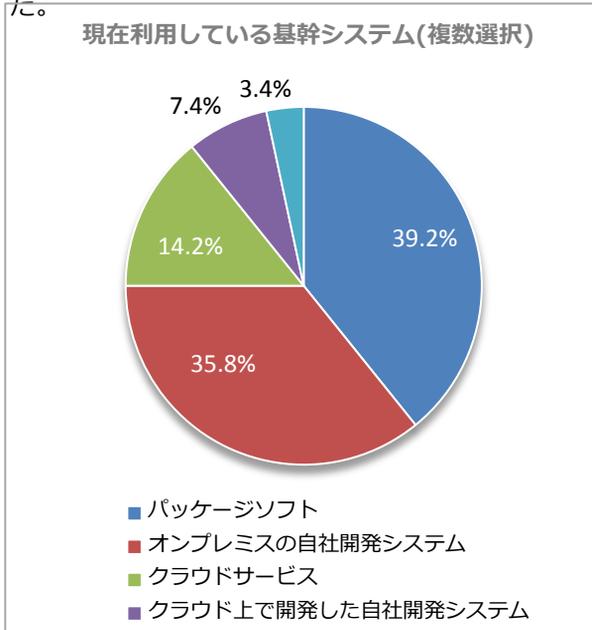


図4-1-1.現在利用している基幹システム

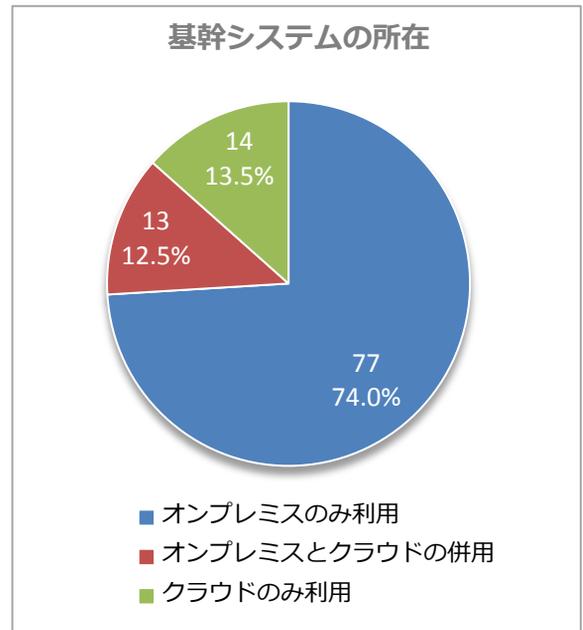


図4-1-2.現在利用している基幹システムの所在

クラウドを利用している基幹業務は、顧客管理、ついで販売管理が圧倒的に多いという結果がでました。これは、CRMやSFAからクラウドを導入し、適用業務を拡大していったためだと考えられます。

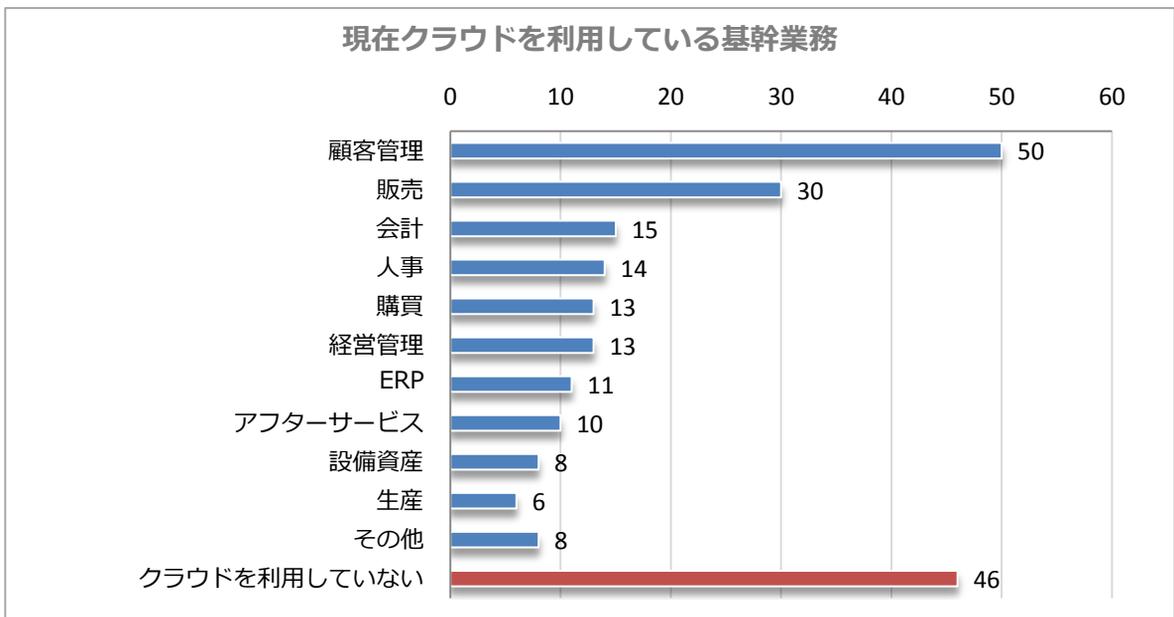


図4-1-3.現在クラウドを利用している基幹業務

#### 4.2 基幹システムの所在と不満点の相関

基幹システムの所在と、現行の基幹システムの不満点の相関を見たのが、下記グラフです。オンプレミスのみを利用している企業は「改修の柔軟性」に対して不満を持っている割合が多く、クラウドのみ利用している企業は「機能が不足している」点、「運用コストが高い」ことに不満を持っている傾向があります。このクラウドのみ利用している企業の半数が、従業員数50名以下の企業であることも考慮が必要です。また、クラウドとオンプレミスを併用している企業は「ライセンス保守料の高さ」に不満があるということが分かりました。

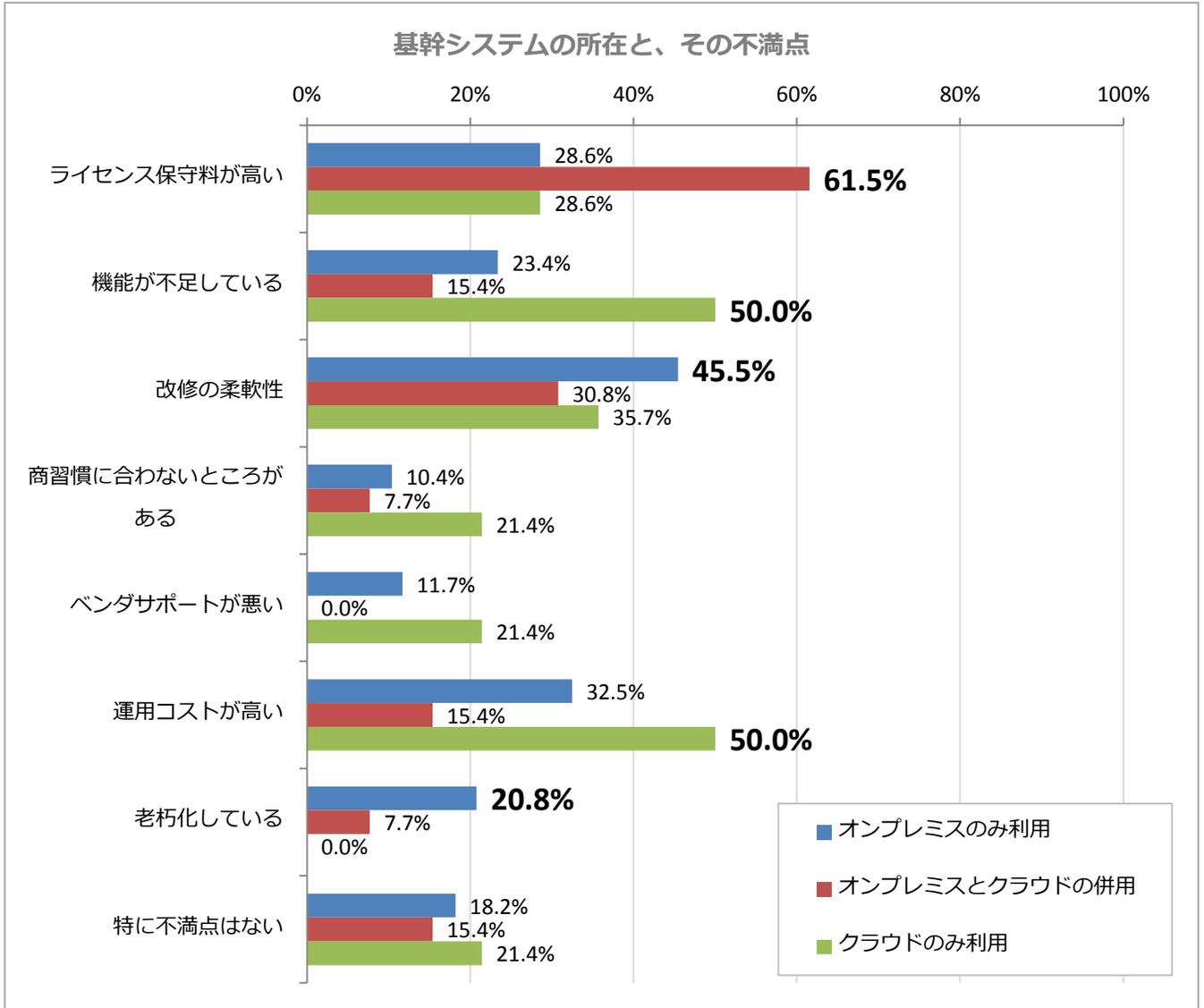


図4-2-1. 基幹システムの所在とその不満点

### 4.3 基幹システムのクラウド移行の可能性

今後の基幹システムをクラウドに移行する可能性について質問した結果が、下記グラフです。既に検討を始めている企業は約15%で、将来的に可能性があると答えた企業は全体の84%にのぼりました。昨年の調査での71%から13%増加しており、クラウド移行の障壁は下がりつつあることが分かります。

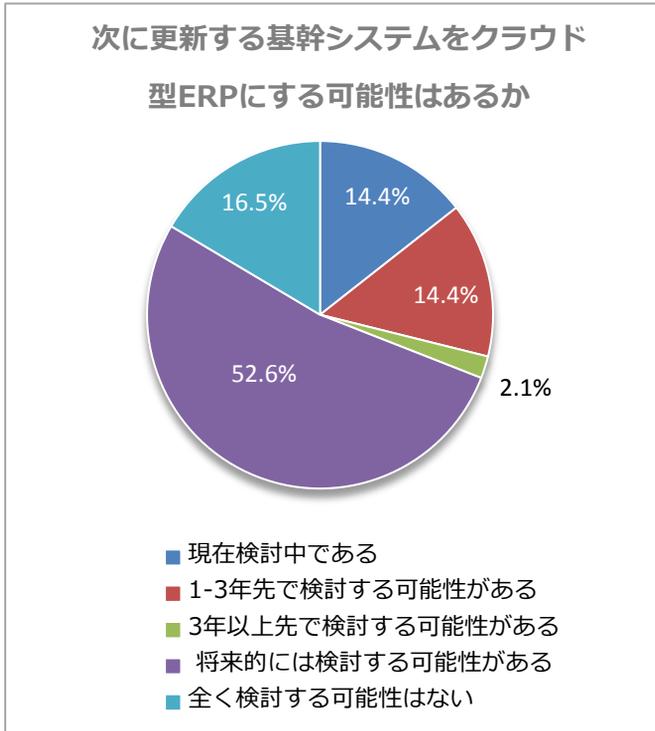


図4-3-1.次に更新する基幹システムをクラウド型ERPにする可能性はあるか

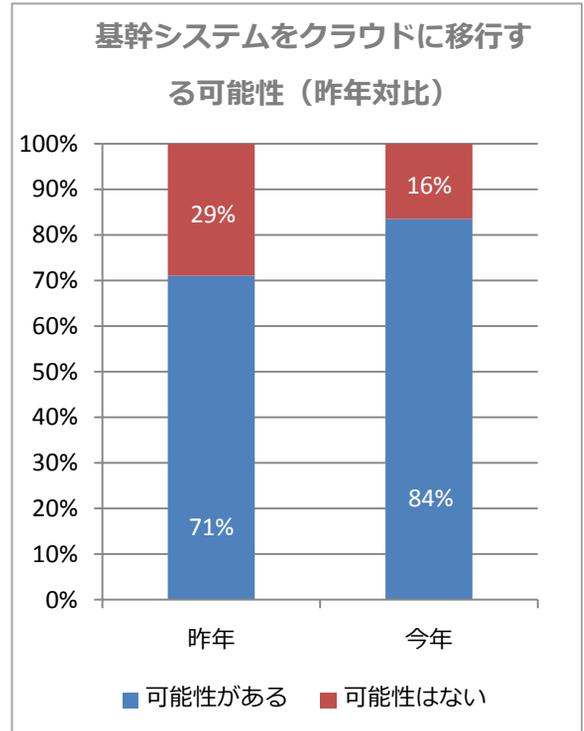


図4-3-2. 基幹システムをクラウドに移行する可能性（昨年対比）

基幹システムをクラウドに移行する際に、何を期待するかを質問したところ、運用コストと初期導入コストを下げたいという回答がもっとも多く寄せられました。これは、先の4.2の「運用コスト」に対する不満と矛盾しているように見えますが、現状はコスト減への高い期待に応えられていないとも想像できます。

クラウドそのものの普及の初期と同じく、まずユーザーはコスト減を期待し、次に導入スピードと柔軟性の高さというメリットがそれを上回ったことを踏襲しているように見受けられます。  
(図3-1-3.クラウドシステムを利用するメリット 参照)

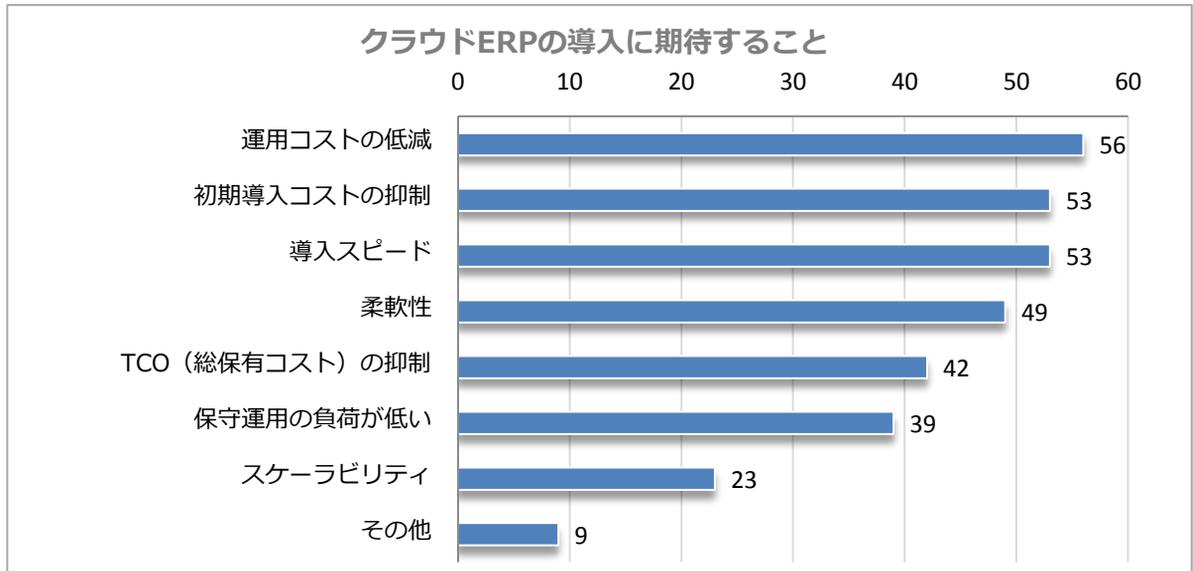


図4-3-3. クラウドERPの導入に期待すること

基幹システムをクラウドに移行するのは、システム自体の改修のタイミングに左右されます。そこで、どの程度の頻度で基幹システムの改修を行うかを質問したのが、下記のグラフです。もっとも多く回答されたのが「法改正など必要になった時に検討」でした。見直しの期間を定めず、必要になったら検討する企業が多いということが分かりました。

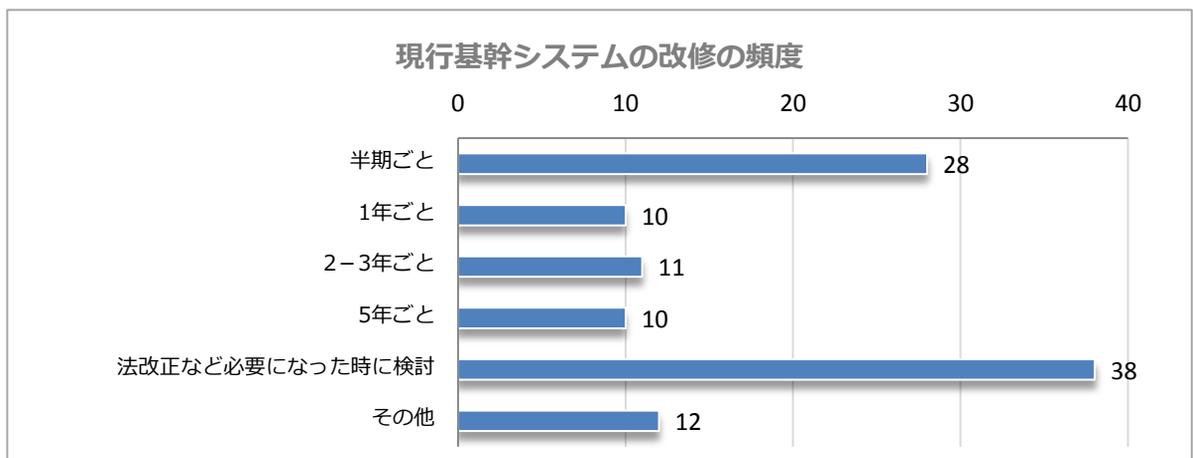


図4-3-4. 現行基幹システムの改修頻度

#### 4.4 基幹システムのクラウド移行

基幹システムをクラウドに移行する  
 なら、どの方法を選ぶかを質問したの  
 が右のグラフです。SaaS型が4割と最  
 も多く、次いでパッケージソフト+  
 IaaSでした。  
 導入の難易度が低いものの検討順位が  
 高いように見受けられます。

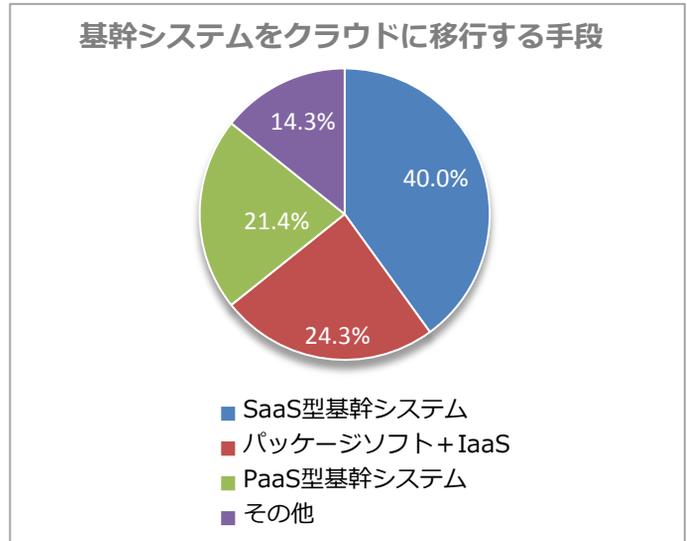


図4-4-1. 基幹システムをクラウドに移行する手段

クラウド型のERPに期待する導入期間と導入費用についての設問の結果が以下です。導入スピー  
 ドは6ヶ月をピークに前後3ヶ月に回答が集中しています。オンプレミス型のERPの導入期間は、  
 一般的に1年超ですので、クラウドERPに対しては、その半分の導入期間を期待していることが分  
 かります。

また、期待する導入費用については、約半数の企業が2000万円以下と回答していることから、  
 クラウドERPであればコストダウンを要求できると考えられていることも分かります。

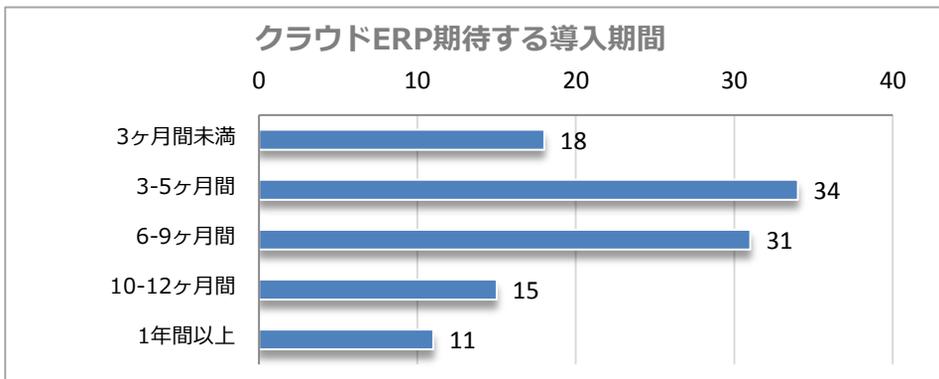


図4-4-2. クラウドERPに期待する導入期間

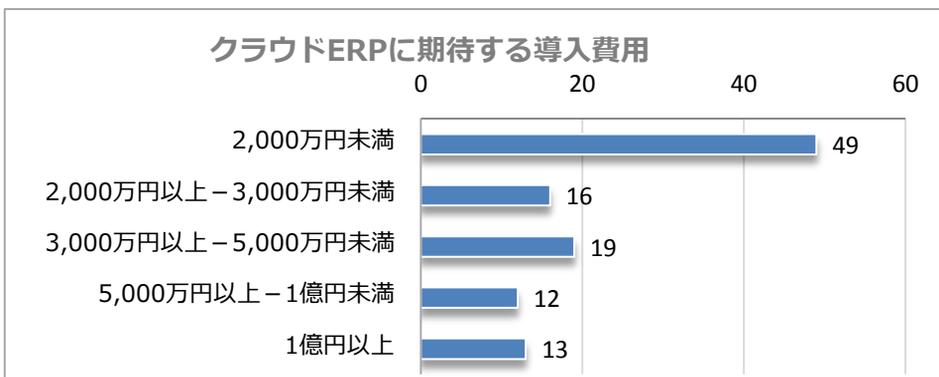


図4-4-3. クラウドERPに期待する導入費用

#### 4.5 基幹システムをクラウドに移行する際の留意点

クラウドERPを導入する場合、どのような点を考慮しますか？という設問への回答が以下のグラフです。109社中91社が「既存の他システムとの連携やI/F接続」と回答しました。周辺システムとの連携、接続が可能かどうかは、8割以上で検討課題に挙げられる機能であると考えられます。

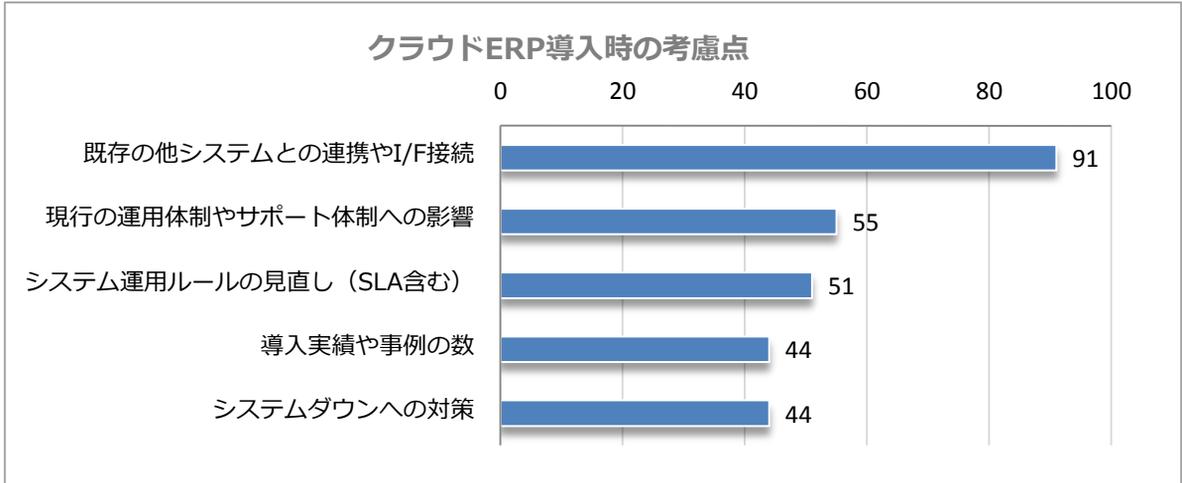


図4-5-1. クラウドERP導入時の考慮点

クラウドERPを導入する場合、ベンダー選定で重視する点を質問した回答が、下記グラフです。もっとも回答が多かったのが「サポート体制が充実している」、次いで「業務知識が豊富」「クラウドシステムの構築実績」でした。日々の企業システムの根幹となるERPの導入時に求められるサポート体制や業務知識と、クラウドの経験の両立が求められることが分かりました。

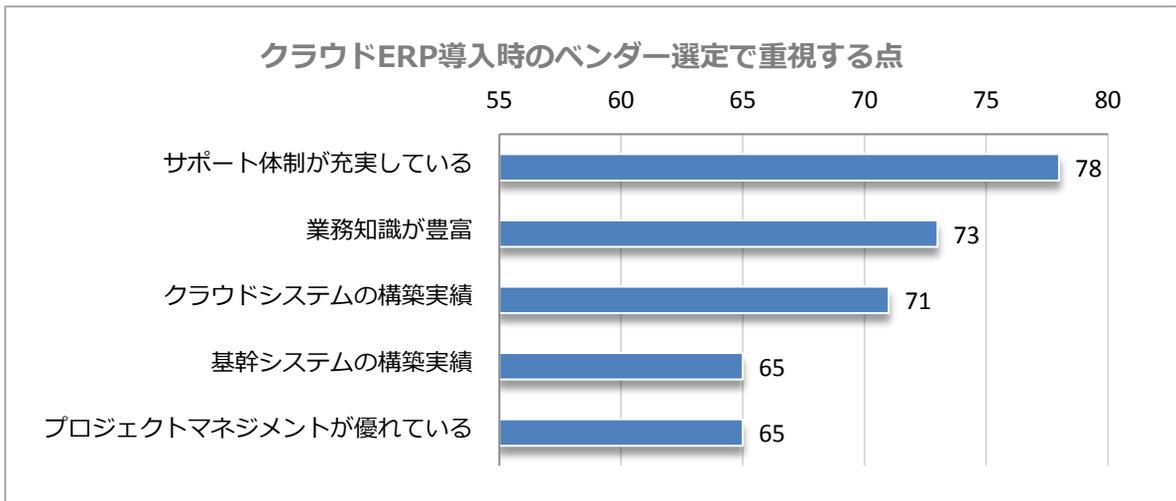


図4-5-2. クラウドERP導入時のベンダー選定で重視する点

## 5. 基幹システムの保守運用

### 5.1 基幹システムの保守運用体制

クラウドERPの保守サポート体制について質問し、現行基幹システムの保守サポート体制と比較したものが、下記グラフです。クラウドの場合は、現行より自社IT部門の割合が16%低く、その分ベンダーのリモート対応が高くなっています。これは、自社IT部門にクラウドのエンジニアがいない、あるいはエンジニアを抱える必要はないと考えているように見受けられます。その代わりにベンダーにサポートを委託することを検討していますが、常駐ではなくクラウドの特性を活かしリモート対応を選択するという結果が出ています。

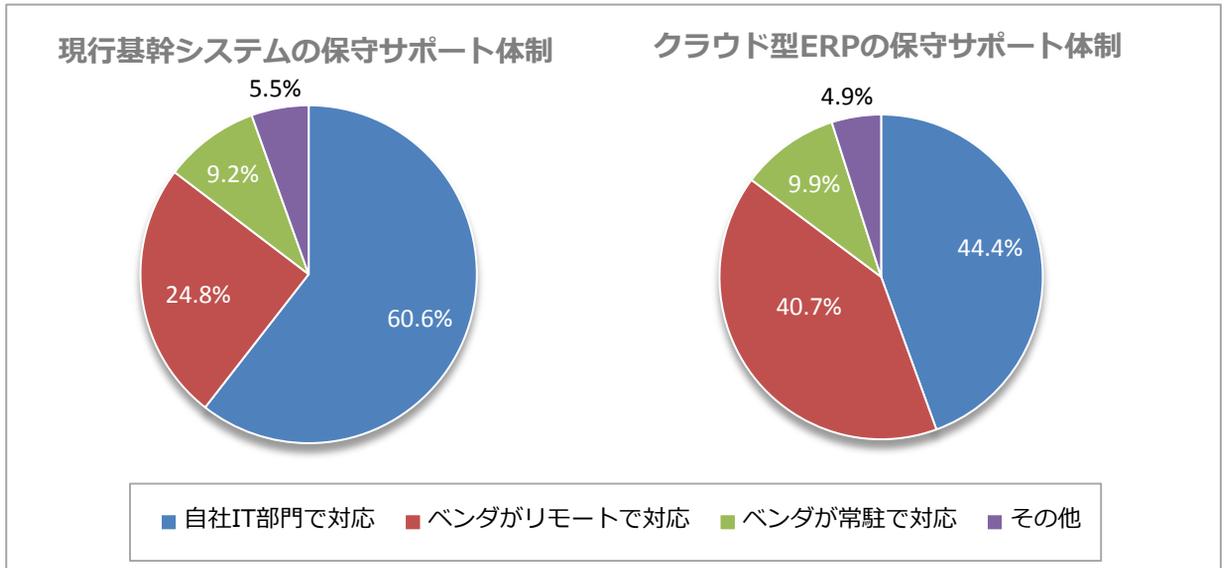


図5-1-1. 保守サポート体制

クラウドERPの運用時に重視する点について質問した回答が、以下のグラフです。「図4-3-3.クラウドERPの導入に期待すること」で、もっとも多く回答された「運用コストの低減」と同様に、運用時にもっとも重視するのは「運用コスト」でした。オンプレミスの自社開発やパッケージ製品を購入した場合と違い、クラウドサービスは月額利用料がかかるということも、運用コストを気にする企業が多い結果となった要因だと推測されます。

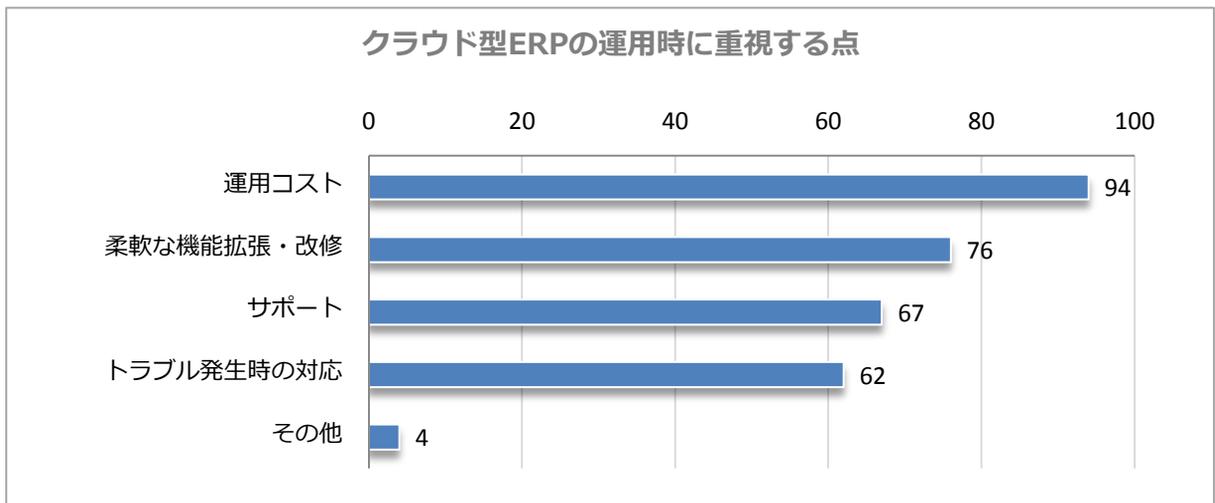


図5-1-2. クラウドERPの運用時に重視する点

## 6. クラウドERPの展望

### 6.1 クラウドERPの調査結果まとめ

---

今回の調査結果のうち、クラウドERPについて整理すると以下になります。

#### ■ 導入状況

- ・ 今回の調査で、基幹システムは「クラウドにすべてある」と答えた企業は13.5%。
- ・ クラウドERPの導入を「現在検討している」か「検討する可能性がある」と答えた企業は、昨年と比較して13%増加し、全体の84%に。

#### ■ 導入時の検討内容

- ・ クラウドに移行する手段は「SaaS型」と回答した企業は40%。
- ・ 導入に期待する期間は6ヶ月程度、期待する導入費用は2,000万円以下。
- ・ 導入時の考慮点は「他システムやI/Fとの連携」。
- ・ 導入ベンダーの選定で重視するのは「サポート体制の充実」がもっとも多く、次いで「業務知識」「クラウド実績」の順。

#### ■ 保守・運用

- ・ 基幹システムをクラウド型にすると、運用体制は「自社IT部門」が減り「ベンダーのリモート保守」が増える傾向。
- ・ 運用時にもっとも重視するのは「運用コスト」、次いで「柔軟な機能拡張・改修」。

### 6.2 考察

---

基幹システムのクラウド化については、徐々に検討を開始する企業が増えてきています。既に8割以上の企業が検討のテーブルに挙げようとしており、実際にクラウド移行を実施した企業も1割を超えました。

導入時には、これまでのオンプレミスの基幹システムを導入するよりも圧倒的に短い期間とコストを期待しています。短い導入期間を実現するために、多くの企業が、柔軟性のあるSaaS型のシステムを移行手段に検討すると回答しました。また、導入ベンダーに対しては、柔軟性のあるシステムを活かすためにもサポート体制を重視し、かつ保守・運用フェーズでのリモート対応を求めています。

コストについては、導入コスト、運用コストのいずれも低減することを多くの企業は望んでいますが、実際にクラウドERPを導入した企業が、運用コストについて不満を持っているという結果も出ています。これは、クラウドになることでライセンス費用が毎月かかることへの不満とも見受けられ、クラウドの柔軟性やサービスとしての進化がコストに反映されることに対し、どのように考えるかにより異なってくる見解であると思われます。

今後、クラウド型ERPが企業ニーズに応え進化し、より使い勝手がよかったり業種に特化したサービスが登場することで、活性化したマーケットへと進化していくことが推測されます。

## テラスカイについて

テラスカイは、クラウドとシステム連携を核とするソフトウェア開発・コンサルティング事業等を行なっています。創業時よりセールスフォース・ドットコム社のコンサルティングパートナーとして、700社を超えるお客様への導入サービスを行なってきました。

その実績により培ったノウハウを基に、お客様自身での開発運用を可能とする開発支援ツールを提供しています。

## テラスカイの提供するサービス

### 1. Salesforce 導入コンサルティングサービス

Salesforceの各種認定資格を持つエンジニアによる導入コンサルティングサービスを提供しています。650社を超えるSalesforceの導入実績があります。

### 2. 開発支援ツールの提供

#### SkyVisualEditor

Salesforceの画面を、プログラミングすることなく自由なレイアウトにデザインできるクラウドサービス。入力、検索のしやすい画面、タブレットでの手書きサイン機能など拡張機能を備え、100万ユーザーに利用されています。

#### SkyOnDemand

Salesforceなどのクラウドサービスと基幹システムのシステム連携や、クラウドサービス間のシステム連携を、ノンプログラミングで設定できるクラウド連携サービス。Salesforceと最も多くの連携実績を持つSalesforceアダプタ（連携モジュール）を内蔵しています。

## 本調査・弊社についてのお問い合わせ

株式会社テラスカイ 経営企画部 営業推進チーム

03-5255-3410

[info@terrasky.co.jp](mailto:info@terrasky.co.jp)

<http://www.terrasky.co.jp>